

●令和2年度 第2回 日南市総合教育会議 会議録

R03/01/26 総務・危機管理課（総務係）作成

- 1 日 時 令和2年12月22日（火） 13時30分～14時52分
- 2 場 所 日南市役所 プレハブ会議室（北301号室）
- 3 出席者 日南市長 崎 田 恭 平
日南市教育委員会
教育長 都 甲 政 文
委 員 崎 村 洋 子
委 員 郷 谷 純 一
委 員 黒 木 由 香
委 員 別 府 信 一
- 4 事務局 総合政策部長
総務・危機管理課（課長、課長補佐兼総務係長）
学校教育課（学校教育担当監、課長補佐兼管理係長、管理係主査、
課長補佐兼教育係長、教育係指導主事2人、教育係主査）
生涯学習課（課長）
- 5 協議事項 (1) 中学校の制服について（アンケート結果など）
(2) いのちの教育推進事業について（象徴的な学年の指導案、SNSモラルなど）
(3) その他
- 6 会議録 別紙のとおり

(別紙)

発言者	発言内容
総務・危機 管理課長	<p>令和2年度、第2回目の日南市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>本日は、ご多忙な中、また、第10回教育委員会の前に、ご参集いただき、ありがとうございます。</p> <p>それでは、お配りしております会次第により進めさせていただきます。</p> <p>まず初めに、「市長あいさつ」となっております。市長、よろしくお願いします。</p>
市長	<p>今日は、どうも、ありがとうございます。</p> <p>これだけ短期間に連続でやるのも珍しいんですけども、年度末に向けて、しっかりやれることをやっていきたいと思えます。</p> <p>今日の会議の話題と別なんですけど、成人式の延期を、方向転換をこれから記者会見しようと思っています。当初、私自身の考えとしては、例えば、「鬼滅の刃」で（興行収入が）300億円を超えるくらい映画館に集まっても、じっと座って聞く分については、クラスターが起きているわけではありませんので、開催の仕方など、必要以上の自粛といいますか、根拠のない行動というか、できることはできると、やっていく必要があると思っていたのですが、だからこそ宴会は明確にしないでくれという話はしまして、結構、二十歳の子たちもそれに応えて同窓会の中止を続々と表明してくれていたようなんですけども、やはり、どうしても、「帰ってきても宴会を止めるということをしていないんじゃないか」という市民の不安の声と、東京が本当に爆発的に増えているという中で、小池都知事も「そもそも動いてくれるな」という動きも出てきましたので、そもそも人を移動させないということも大事ななということで、今日、教育長にもご相談して、今朝の打ち合わせで方向転換をして、今日の夕方、延期と。延期時期については、ちょっと定められないなと思ひまして、春で収まるのか、夏で収まるのか、分かりませんので、中止を出している自治体もある中なので、時期未定の延期ということと、あともう1個は、二十歳の子だけ帰ってきてはいけないわけではありませんので、年末年始も帰省の自粛をお願いしようと思っています。これは、県外に限るということやっていこうと思っています。</p> <p>ただ、「二十歳のグリーンシート」というのを作りましたので、どうしても動くとかたは、そのチェックシートを見ていただいて、そのとおりに行動してもらって、やむを得ない帰省はしてもらおうといひますか、そういった方向で、今日の夕方、記者発表をしたいと思っています。今回、発表した次の日は、二十歳の子たちから「グリーンシートを早くください」という好意的な声が多くて、2日、3日経っていくと反対の声が増えてきたというような推移にもなったところです。</p> <p>今回、判断が結果的には朝令暮改ということにもなったので、判断がまずかったなと思っていますが、初めての事態の中で、柔軟に変えていくのも大事じゃないかなということで、今回の報告をさせていただいたところであります。</p> <p>今日は、制服といのちの教育、2つの動きについて、ご説明があると伺っていますので、ぜひ、忌憚のない協議をお願い申し上げまして、あいさつに代えさせてい</p>

<p>総務・危機 管理課長</p>	<p>たきます。</p> <p>次は、協議事項となっております。</p> <p>総合教育会議につきましては、公開するという事になっていて、12月1日発行の広報誌により傍聴者を募集したところですが、本日は、傍聴者が1名いらっしゃいます。また、後日、本日の会議録につきましては、市公式ホームページで公開をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは、ここから市長のほうに進行をお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、進めさせていただきます。</p> <p>まず、「中学校の制服について」、説明をよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>指導主事</p>	<p>資料「制服検討に関する報告」について説明します。前回、会議の中で、どういふふうに取り組んできているのか、小中学校での制服検討の経緯を、全教職員とPTA役員に説明しました。それから、保護者アンケート、生徒アンケート、職員会議の実施、これら4つについて取り組んできました。</p> <p>現在、アンケートは集計を終えていますが、集約・分析はまだ途中ですので、その途中に内容について報告します。まず、保護者アンケートは全部で1,566家庭取っています。小学校は4・5年生対象でしたので555、中学校は全家庭対象で1,011です。アンケートの内容は、6つの項目について優先順位を付けるものでした。機能性、デザイン性、価格、扱いやすさ、選択制、オリジナリティといった項目に、資料に記載しているような説明を加えたものに対して、何が一番優先しますかというような問いです。</p> <p>小学校では、グラフにあるとおり、機能性が最も重視する内容で、その次に扱いやすさ、そして価格となっております。同様に中学校でも、機能性、扱いやすさ、ここを重視するといったことが出てきています。保護者の要望としては「活動しやすい服装が良い」、「家庭での扱いやすさを重視」、そして「低価格」、ここは、おさがり関係のことについても書かれていました。</p> <p>次のページのとおり、アンケートの中には、自由に書いていただく項目もありました。1,566家庭のうち228家庭が何かしらの記述をしています。その中で、前向きな意見として、清潔感・耐久性・伸縮性などの機能面が記述として多かったと思ひます。あと「アイロンがけ不要は非常に助かる」、「低価格になることは家庭がすごく助かる」といった内容がありました。また、統一ということを出してしましたので、「学校ごとにネクタイやシャツでの色分けによる区別」という建設的な意見もありました。そういったことをまとめると、やはり機能面、その中で、清潔感・伸縮性・耐久性・防寒といったところが家庭の中から挙がってきています。そして、扱いやすさや低価格が保護者のニーズとなっております。</p> <p>ただし、反対に「日南市統一はやめてもらいたい」、「変更する意味が分からない」</p>

といった内容もありました。資料に書いてある数字は、その意見を書いた家庭数です。「日南市統一はやめてもらいたい」が228のうち3家庭、「変更する意味が分からない」が4家庭でした。今後、家庭や地域への制服検討に関する周知をやっていく必要があると考えています。

次のページには、職員会議の内容を載せています。職員会議は4つの柱で構成されました。1つ目は「日南市全体で統一した制服」についてどう思うかで、やはり、家庭からの意見にもあったとおり、「統一によって価格が抑えられるから良い」、「経済的なことを考えれば統一で良い」といったことが前向きに捉えられているようでした。反対に、「統一した制服にする必要性が分からない」ともありましたので、先ほど申したとおり、周知の必要が出てくるかと思えます。

また、「制服の選択制」については、「JGBTに配慮した良い考え」、「男女関係なく、夏冬に応じた視点で選べると良い」といった前向きな意見と反対に、「私服で良いのではないか」という、ここは制服検討とは少し逸脱するかもしれませんが、こういった意見、それから「統一感がなくなる」といったことが意見として挙がっています。また、「選択によって金額差が逆に増えるのではないか」という懸念もありますので、このあたりも、選択制がどう価格に影響するのか分析をしていきたいと思えます。

次は「シャツからポロシャツ」といった協議です。ここは「望ましい改良だ」と先生方も前向きに捉えていました。「家庭に配慮されている点で望ましい」、「男女同じ制服になることが利点だ」と捉えています。ただし、学校側からは「シャツのほうが引き締まった雰囲気になるのではないか」というようなところ、そして「式典ではシャツが良い」、「少しラフすぎるのではないか」といった意見ももらっています。

最後に「生徒参画」です。「良いことであり、思い切りオープンに進めると良い」というところで、子どもたちが参加するということには、非常に良いなと捉えられていますが、逆に「すべて子どもに任せると…」という意見もあります。当然ながら、子どもの意見をすべて聞くというのではなくて、みんなで決定していくことですので、そういったスタンスで、これから制服検討に入っていきたいと思っています。

資料の最後のページです。生徒アンケートを実施して、現在、まだ途中の集計ではありますが、6校分の集計をここに載せています。生徒用のアンケートは、全部で7つの質問になっています。この7つの質問のうち3つは、子どもたちが考えた案を取り上げています。また、各学校から「どんな質問をしてみたいですか」という意見を、この7つの質問の中に集約させたかたちでアンケートを実施しています。

上から「選択制」、「ユニセックス」これは、男女とも同じ制服にするといった内容です。最後に「扱いやすさ」といった7つの質問で、子どもたちに選択してもらうアンケートにしました。

このアンケートを取ったときに、生徒の要望として、「着やすさ・扱いやすさ」では、男女どちらの回答を見ても、扱いやすいもの・着やすいものが良いという回答

	<p>を得ています。ただし、選択制とかブレザー関係は、どちらかというとなりの女の子のほうが現行の制服よりもジャケット・ブレザーを選んでいる傾向があります。男子は、どちらかというとなり、それに対してはあまり選んではいません。ところが、男子が最も選んだのはポロシャツです。男子は、やっぱりポロシャツが良いと答えています。</p> <p>そういった男女のアンケート結果の差が、男女比というグラフの中に現れています。性差によって少し意見が分かれる内容です。</p> <p>日南市全体のグラフを見ると、質問3の「現行制服よりもブレザー・ジャケットのほうが良い」とした、トータルの割合は49.9%と、半々の状態です。残りの学校数が出そろって数字が変わってくると思いますが、このあたりの内容について、しっかりと分析をしたうえで、1月に実施される制服検討委員会で具体的な内容を決めていくといったところで進んでいきたいと思っています。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>はい、説明ありがとうございました。1点だけ、「統一した制服を作りたい」といった方針ではなかったもので、単純に「まとめてやったほうが安価だろう」ということなので、そこがうまく伝わってなかったなど。統一することが目的だと勘違いされているから、こういった意見が出たのかなと思ったところです。私は「コストが変わらないのなら学校ごとでの統一でも良い」と思っているんですけど、その説明が必要かなと思いました。</p> <p>皆さんからご意見などありましたらお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>男女差が表れているのも、おもしろいなと思ったところですね。</p> <p>例えば、夏とかでも、安価に設定できれば、シャツとスカートでも良いし、ポロシャツとスカートでも良いし、1着ずつ持つとか、洗濯して着まわすわけだから、2着ずつ持つとか、人によってはワイシャツは1着だけでポロシャツは3着とか、そういうのが大事なんじゃないかなと思っています。</p>
<p>黒木委員</p>	<p>やはり夏場は洗濯回数も多くなるので、アイロン掛けも毎日だとお母さんたちの負担も大きいですが、ポロシャツだと速乾性もあつたり、汗をかいて着替えるのもワイシャツだとぐしゃぐしゃになってしまうけど、ポロシャツだと着替えも体操服感覚で、体操服を着せている学校もあると思うけど、体操服で授業よりかポロシャツで授業のほうが、スポーツと勉強のメリハリが付くのかなという気がします。</p>
<p>市長</p>	<p>すばらしい母の意見ですね。</p>
<p>黒木委員</p>	<p>アイロン掛けが大変。</p>
<p>市長</p>	<p>市役所の職員ですらポロシャツを着ているのだから、子どもにアイロン掛けしたワイシャツを着せる必要が、そもそもあるのかというのは思うので。</p>

黒木委員	子どもとこうい話をすると、「式典だったりとか、そういう時はやっぱりシャツを着たほうがピリっとなるよね」と子どもたちは、そんなふうに言ったりもするので、そのメリハリが付くとまた。
市長	実際、1学期の終業式と2学期の始業式以外は、夏の時期って式典ないですよ。本当は、なくても良いのかもしれないですけどね。女子のオーダーに応えるためにも、どっちでも良いとする中で。
崎村委員	昔、よく聞いていたのが、ワイシャツだとズボンの中に入れるじゃないですか。それが暑くてズボンから出してて、それがあまり見栄えが良くないと。
市長	ぜひ、洋服の着方も合理的なものに、ぜひ、見直していただきたいと思っていて、うちの長男が「いま寒い時期になったので、長ズボンOKになりました。今日から長ズボンをはいて行ける」と先週言っていて、そもそも、そんなルールがあったのに驚きました。半ズボンしかはいてはいけないというルールが合理的なのかと。昔の名残のままで見直さない洋服ルールは、小学校もぜひこの機会に見直していただきたいと思います。小学生は、うちの息子とかも子どもだから、まともに受けているというか、本当なら寒さとか、その時に応じて洋服を着分けるという判断をさせることが大事なのに、寒くても半ズボンという非合理的なルールを守らせていること自体が、子どもの成長に良くないのではないかと思ったところでした。「ルールはお互いよ」と私は言いましたけど。
崎村委員	素直に聞くんだ。
市長	ルールが合理的なのか、考える頭を持ってほしいなと思っていて。
別府委員	アンケートの結果を見せていただいて、否定的な意見とか、変更する意味が分からないとか、統一した制服にする必要性がないのではないとか、そういったところは、質問の答えとしては、ちゃんと説明すれば分かってもらえるような内容ばかりなので、発信が大切なのかと。前回もしあったら申し訳ないのですが、そもそも、賛成なのか、反対なのかというアンケートは取られていないんですかね。制服を変えることに賛成なのか、反対なのか、割合ってどのくらいですか。
指導主事	前回、子どものアンケートですね、昨年度、わかすぎ塾の中で出させていただいて、その中でLGBTの研修をしたときに、LGBTで自分の制服で非常に悩んでいる子どもさんがいたと。そこから、じゃあ自分たちの制服はどうなのかと、昨年度、研修しています。そこで自分たちの制服を考えるにあたって、昨年度の中学生全員、1,000人以上の子どもたちにアンケートを実施しています。その中で、制服を見直すべきだという答えを言った子どもたちが、前回の資料の中でいいますと、

	見直すべきだと答えた生徒たちが76%、そして、ブレザー関係の制服にしたほうが良いと答えた子どもたちが67%、ここがスタートになっています。子どもたちからの声というか。
別府委員	保護者での賛成、反対というのは取っていないんですか。
指導主事	はい。
別府委員	もうひとつあるのが、ポロシャツにするかワイシャツにするか、やっぱりワイシャツのほうが締まるとか、そういった意見はあると思うんですけど、決定する場合は、アンケートによって決定するのでしょうか。それとも、ある程度意見を聞いて、この方向で行くというかたちで。
指導主事	本年度の1月に、また制服検討委員会がありますが、どういった決定が必要なのか決まってくると思います。現時点では、この方法でというのは、まだ決定していません。制服検討委員会の中で、おそらく決定していくと。
別府委員	分かりました。ありがとうございます。
	子どものアンケートは去年、市内の全生徒やったんですよね。親は結局、賛否を聞くまではやっていないんですよね。
指導主事	はい。
郷谷委員	いま、保護者や子どもさんのアンケートの集約結果を聞いて、いずれにしても、子どもたちが着用する制服について、保護者、子どもたちがそれなりに考えて、結果がこういうことになったということについて、プロセスについて、こういうことについて子どもたち、親が意識することが良いのかなと思いました。それと、この前の会議の直後に、宮日新聞に西都市の都於郡中学校の新聞記事が出てまして、女の子のストラックスを導入したという風な記事を見付けましたけど、各学校で着用している制服について検討する時期に来ているのかなという面も考えられますので、そういうふうな意見を大事にして、子どもの意見、親の意見を集約して、何らかのかたちでできると良いのかなと思いました。
市長	私もあの記事を拝見して、いろんな動きが出ているんだなと思いました。しっかり結論を出したいなということで。写真で見ると、ちょっと変ですもんね。セーラー服にズボンみたいな。どうせなら、学校に行くのが楽しくなる素敵な制服で行ってほしいなと思います。

黒木委員	<p>中学生が自発的に問題点や疑問に思っていることを、決められたからそのルールを守るのではなくて、自分たちの学校生活の中で「ここは変えたほうが良いのではないか」ということを子ども同士で話し合っ、大人の意見も聞き入れながら、みんなで考える機会があるのは、わかすぎ塾はすごく良い取り組みだなど、特にこの制服のことで感じました。やっぱり、子どもが問題提起することで、家族との会話も、親を説得する、「自分たち生徒は、こうだから、こうしたいんだよ」というのを、親を説得する、先生を説得する機会があるというのは、すごく良いなと感じています。</p>
崎村委員	<p>子どもと家庭で話す、会話が増えるんじゃないかなと思います。共通の話題というか、なかなか難しくなっている昨今、1つの話題で、いま現在、こういう進め方で、こういう考え方で、子どももいる、親もいるというところで、同じじゃないというところで、お互い意見の出し合いがあるのは、すごく良いんじゃないかなと思います。家庭の中で話すという。</p>
市長	<p>いまお話がありましたとおり、家庭でも学校でも議論をしながら、その中で、去年からの2カ年度なので、どこかで「もう決める」ということも出てくるので。経済性をクリアすれば、いっぱいバリエーションがあると皆さんOKとなると思うので、そのところを押さえながら、ぜひ進めていければと思っています。</p> <p>議題も豊富なので、後は次に行きたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
複数名	<p>はい。</p>
市長	<p>では、次に、いのちの教育推進事業について、説明をお願いします。</p>
指導主事	<p>資料の1ページです。前回の会議で提案させていただいた系統表、小学1年生から中学3年生までの内容で、1学年が年間3回、指導に内容について提案させていただきました。</p> <p>その中で「特に」というところで、今回、2つの授業について簡単に説明します。まず1つ目が(小学5年生の)「愛と支配」というテーマです。これは、右に書いてあるとおり「親しい中であるがゆえの支配的な言動と関係性を捉えさせ、相手を大切にすることの意味を考えさせる」ということが狙いです。昨今、SNSでのやりとりは、当然、大人だけではなくて、もう子どもたちも十分使いこなしていると。それが、本当に相手のことを考えた活用なのかというところを、踏み込んで指導していくという内容です。</p> <p>この指導に関しては、大阪市立生野南小学校での実践を十分に活用しながら、県の性教育の手引も参考にし、内容を考えているところです。2ページに、その「愛と支配」の指導過程を簡単にですが書いています。まず右側にLINEのやりとりを載せています。ケース1とケース2のやりとりを、あなたはどう思うかというこ</p>

とを考えていく授業です。「LINEで何回も何回も送ってくる相手に対して、どう考えますか」という授業です。こういったことに対して、まずは一人一人が判断する、「これは青信号かな、これは赤信号かな」という判断をしていきます。実際に友だち同士で協議すると、「これは、あなたは青信号なの？」ということに気付いていきます。「自分は赤信号だ」と。そういった一人一人の判断を大事にしていき、そこから、自己決定の大切さや、相手への思いやりといった部分を学ばせていく授業です。これに関しては、まだ指導案等も検討中ですので、こういった内容でしか説明できませんが、実際にLINEのやりとりを使った指導を検討しています。実際にこれを担当している先生が授業をして指導案を作っているという状況なので、より具体的な指導案ができるんじゃないかなと思っています。

次に、3ページは(小学5年生の)「パートナーシップ」という内容です。この「パートナーシップ」というのは、「様々な形のパートナーについて考えたり、違いについて説明したりすることで、人と人との関係性への理解を深めることができるようになる」ことが目的です。パートナーと言いましても、様々な形式があります。兄弟、恋人、友達、夫婦についても様々な形態があるかと思います。そういったパートナーについて考えていくのが、今回の指導になります。

次のページが、実際におこなった授業の内容です。左側から見ますと、よく目にするアニメのキャラクターが載っていますが、例えば、サザエさん一家の関係性を子どもたちに提示すると、当然ながら、タラちゃんとサザエさんは親子関係です。ところが、ワカメちゃんとカツオくんは兄弟ですよと。そういった身近なところの関係性から、じゃあ、夫婦と恋人はどう違うのか、兄弟と友達はどう違うのか、といったところを子どもたちに考えさせます。そうすると、子どもたちから、この白い紙に書かれているとおりの、様々な意見が出てきています。「恋人はこうだ」「夫婦はこういうものだ」というふうに、子どもたちなりに違いについていろいろ協議をしていき、最終的には、夫婦であろうが、兄弟であろうが、恋人であろうが、そこに共通するものは、やはり「どんな関係であっても、相手を思いやる気持ちが大事なんだ」というところに持っていった授業でした。

この授業を参観して感心したのは、子どもたちが積極的に述べていたことと、資料の5ページに表れていると思いますが、ここに子どもたちの振り返りの言葉が出ています。「人生について、こんなにも考えることがなかった」と。要は、パートナーとか夫婦とか恋人というのは、よく聞くんだけど、それについて実際に学ぶ機会がないと。そういったことなので難しかったけども、学ばないと、そういう機会がないということを子どもたちは振り返っています。そして、「親友や好きな人だけじゃなくて、友達や家族、兄弟にも思いやる気持ちがすごく大事だということが分かった」と。そして、最後の振り返りの言葉を見ていただくと、ここにBL・GLという言葉が出てきています。私も最初は、このBL・GLという言葉が分からなかったのですが、ボーイズラブ・ガールズラブという同性愛ということ子どもたちは既に情報として持っているんですね。で、この子は「このような授業をしたいなと思っていた」と、BLとかGLとか、マンガ等でもう手に入れている情報なんだ

	<p>けど、「男女の恋だけじゃなくて、あまり考えたことがなかった」というふうに振り返っています。結果的に、こういった授業が「これから知っていったらいいな」というキッカケになったようで、非常に前向きな子どもたちの意見が出ていました。</p> <p>今の段階では、こういったプレ授業をして、これを基に授業を作っていくという段階になっていますので、来年の2月ぐらいには全ての学年の指導案がしっかりと整っていくのかなと思っています。こういった内容で今「いのちの教育推進」が進んでいますので、来年の4月からは、この指導案を基に子どもたちへの指導が展開されるといくことになっていきますので、ぜひ、また、できあがりでしたら、どこかでご紹介させていただけたらと思っています。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。非常に良いかたちで、1個目のは、まだこれからですが、2個目のは、もうやったということですよ。</p>
指導主事	<p>指導案を作るために、1回テストでやりました。</p>
市長	<p>子どもたちの反応を見ると確かに、こんな授業をやると「深いな」と思いますね。恋愛とか夫婦とか、非常に本質的なことで、こういったことがベースにあると、SNSでのやりとりというところでの、本当に自分が考えられる地頭というか、力が付くと思うので、非常にありがたいなと思っています。</p> <p>何か、ご意見等ございませんか。</p>
別府委員	<p>ここまで深く人間関係について掘り起こしたことがなかったので、すごい良い取り組みだなと思っています。これを授業でされるのであれば、私たち親の世代でも、ここまで深く考えたことがないと思うので、せっかくだったら、この授業をするときに参観日を絡めて保護者にも聞いてほしいなと、そして帰宅したら話す機会にもなると思いますし。</p> <p>参観にするとき、ただ単純に参観日にするのではなく、「日南市として、こういう取り組みがあるから、こういった授業をおこなっているんです」という、前もつての話があると、聞きに来るときも入り方が全然違うと思うので、参観日を絡めてもらおうと、すごく素晴らしいと思います。</p>
市長	<p>そうですね。参観日でやってもらおうと良いですね。特に、この5年生の授業は。</p>
教育長	<p>これ、「レインボープラン」というのをやっていますけど、来年は各学年の保護者に9年間の流れをぴしゃっと示して、それ以降は、小学校1年生に入ったときに「9年間でこういうことをやっていくんですよ」「9年後にはこういう姿になるんですよ」といくことをしっかり伝えて、家庭でも理解していただいて、今おっしゃったように参観日であるとか、そういったかたちでして、これは家庭と一緒にやれないといけないといけないことだと思うので、ぜひ、日南市の教育の柱としてできないかな</p>

	<p>と思っているところです。</p>
黒木委員	<p>これは、心の教育ということで、教える側の先生の性格とか考え方もすごくバラツキがあったりすると思うので、そこはもう、先生たちに統一してというか、先生の熱量によって差が出てくるんじゃないかなとすごく感じるので、研修だったり先生たちの統一も、家庭も一緒にできるということで、力を入れていっていただけたらなと思います。</p>
市長	<p>答えの統一はないんですけど、進め方の。</p>
黒木委員	<p>算数みたいなのは、授業も教科書どおりというか、そういうのもあるけど、これは先生たちの考え方とか気持ちとかもすごく入る、バラツキがあるんじゃないかなと思うし、その先生から受けていくことで、これは本当に心が育つ授業だと思うので、そこにブレがないようにしていただきたいです。偏りがないようにというか。</p>
崎村委員	<p>授業を受けた子どもたちの正直な気持ちが、この最後の振り返りに載っていると思います。実際に子どもたちは、BLとかGLとか大人が知らない言葉をもう普通に漫画の世界で情報を持っていて、同性愛みたいなのも受け入れられるというか、本当にある話じゃなくても知識として知っているんだろと思うので、情報の幅がある授業があると、自分たちの中で考えることができるし、これは本当に良いきっかけになるんじゃないかなと思います。</p>
市長	<p>その振り返りなんですけど、ここに載せたのはレベルが高いものだと思うんですけど、40人ぐらい受けている中で、反応が薄い子どももいたんですかね。（載っているのが）3人だけだから、これがいっぱいだと、どんなだったのかなと。</p>
指導主事	<p>実は、このクラスは非常に活発で、その活発さが、子どもたちが知っているようなLINEとかマンガのGLとかが魅力的なテーマだったからのか、クラスのカラーだったのか、分からないのですが、3つ選んだとはいえ、このクラスはこの勉強に対してほとんどの子が、振り返りをいっぱい書いていました。なので、選んだというよりは、内容に沿うものを持ってきたんですが、実際はすごく良いことを書いていました。</p>
崎村委員	<p>全部読んでみたいですね。</p>
郷谷委員	<p>前日も指導主事のほうから説明を受けたんですが、前回は資料をいただいただけだったので、なかなか目を通す時間がなかったんですけど、家に帰って、この9年間のプログラムをじっくり見させていただいて、いろんな教科と連動した内容になっているし、ゴールイメージのところに「自他を大切にする」ということが書いて</p>

	<p>あるんですけど、結局、考えてみると、いのちの教育というのは、根本的には、自分を大事にする、そして、自分以外の人を大事にするということに、一番重きを置くというか、その辺を押さえながらの授業展開になると思います。</p> <p>こういった内容を9年間やっていく中で、先生たちが指導する内容が、子どもたちの中に入って行って、社会に出てから大いに役に立つのではないかと思います。</p> <p>で、これも新聞記事なんですけど、どこの小学校だったかは忘れましたが、非行防止教室というのを開いたんだそうです。その小学校6年生の子どもが、宮日新聞に投稿した内容が「ネットに注意」というテーマで書いていました。学校で非行防止教室で外部の講師から聞いた感想だったんですが、その学習を通して子どもが感じたそのものを書いていたんですけども、「個人情報に教えてはいけないということが分かった。自分を守っていく中で、それが一番大事なことだ。」ということと、「メールを打つときに、相手の気持ちを考えるようになった。」ということを書いていました。</p> <p>ですから、学校の中で、いろんな機会を通して、授業を展開していく中で、こういうプログラムが意図した内容が子どもたちの中に入って行くのではと考えました。こういうことを基本に、学校で指導していけば良いんじゃないかなと思います。</p>
市長	<p>本当に、良い形で進めていただいて、ありがとうございます。指導要領は今年度中に完成でしたかね。</p>
指導主事	<p>はい。</p>
市長	<p>では、来年度からもう実施ができるということですね。</p>
指導主事	<p>はい。</p>
市長	<p>それは、もう小1から中3まで完成ということですかね。</p>
指導主事	<p>はい。</p>
市長	<p>急ピッチでやっていただいて、本当に、ありがとうございます。 うちの子が、次、小5に上がるから、楽しみにしたいなと思います。 では、次のテーマに行きたいと思います。</p>
学校教育課長補佐兼教育係長	<p>来年度の予算要求時期が来ていまして、教育委員会が新規事業として要求しているものについて、委員の皆さまにもご理解いただきたいと思ひまして、説明させていただきます。</p> <p>まず、「スクール・サポート・スタッフ」についてです。これは、教員の事務負担の軽減という目的です。それによって、教員が子どもと向き合える時間を確保でき</p>

るところです。業務内容は、授業の準備、採点、プリントの印刷・配付、コロナ対策の消毒や換気、こういったことをおこなっていただきます。現在は、県の事業として10校に配置しています。これが来年度から、県の補助を活用した市の事業に移行します。来年度は13名の配置を検討しているところです。

続いて、「スクールソーシャルワーカー」についてで、似たような名称でちょっと紛らわしいんですが、こちらは、福祉関係の専門家を学校に派遣して、児童・生徒の環境への働きかけ、関係機関との連携などをおこなっていただきます。学校を訪問して、児童・生徒の観察、保護者との面談、家庭環境が複雑な家庭等を中心に支援をおこなっていきます。現在、県から日南・串間地区で1名の派遣をいただいています。やはり、こういった家庭が多く、不登校とか問題行動が増加しています。やはり、市独自の配置が必要になってきています。これについては、県内9市では西都市と日南市以外では全て導入していますし、日南市でも来年度、1名の配置を検討しているところです。5分の3の県の補助です。

次の「GIGAスクール構想」については、前回の総合教育会議で説明させていただきましたが、今日はお時間をいただきたいと思います。資料の1番と2番については、前回説明したとおりで、導入に向けて順調に進んでいます。3番の「教育研究所における研究」についても、タブレットを活用した授業を研究していただき、各校への授業活用アイデア集の配付や、教員向け研修を実施していくという流れになっています。来年度の新規事業としては4番の「ICT支援員」を導入したいと思っています。この説明の前に、お時間を少しいただきまして、お手元のほうに今回導入するのと同じ機種タブレット、これは業者からお借りしているものなんです。これに既に授業支援ソフトが入っています。これを委員の皆さまにも体験してもらって、実際どういった授業が学校でおこなわれるか、実施していきたいと思っています。

●タブレット活用授業の体験で実施したこと

①日南市で活用する授業支援システム「ロイロノート」にログイン

②タブレット内に今日勉強するノートを作成

③指導主事が次のような問題を出題（全員のタブレットへ送信）して、全員がタブレット内で回答・対応し、指導主事へ返信したら、全員で各自の返信内容を共有（指導主事の画面を全員へ配信）後、指導主事が各自の答えに画面上で丸を付けて、それぞれに返信

・4年生の算数の面積の問題 … 画面上に計算式や答えなどを指で記入
(子どもたちはタッチペンを使用)

・中学1年生の英語の問題 … 読み上げた英文をタブレットで録音
(録音データの送受信も可能)

・タブレットで撮影した写真の上に文字を記入

(育てているアサガオの写真を撮り成長記録を書くイメージ)

・その他、インターネットで日南市を検索、地図や航空写真を閲覧

指導主事	<p>(指導主事の画面を全員へ配信すると) 誰がどんな解き方をしたのか、クラス全員が分かることができます。(コの字型の図形の面積を求める場合、異なる方法があるが) 子どもが多様な考え方であった場合、もしこれを黒板に書かせると時間が掛かりますが、先生が授業の中で身に付けさせたい考え方・解き方を意図的に焦点化して見せることもできます。このように時間を効率化して、子どもに考えさせたり、気付かせたりもできていきます。</p> <p>タブレットがあると、今までパソコン室へ行って、調べ活動(ウェブ検索)をしていたものが(自分の教室の)机の上でできるようになります。フィルタリングを掛けているので、不適切なサイトには繋がりません。</p>
市長	<p>(このロイロノートに入っている) 無料動画が良いですね。授業の算数とか、約分・通分とかが、单元ごとで見直せるわけでしょう。自分が苦手だったところとか。こういうのを、ぜひ進めてほしいですね。昼休みとかに、今日の授業が分からなかった人は、これで観て良いとかになると。</p>
学校教育課長補佐兼教育係長	<p>説明が途中でしたので継続させてください。「GIGAスクール構想」の資料の4番です。1人1台のタブレットが導入されるにあたって、いかに授業で活用されるか、やはり、楽しさもあるが、なかなか難しさもあるので、また、教える難しさもあり、この「ICT支援員」が欠かせないと考えています。来年度は4名の支援員で計画していて、週1回程度は全校を訪問できる体制です。役割については、資料に記載している①から⑥のとおりで、操作指導、授業中の操作補助、教材作成への助言・支援、校内研修の実施、不具合発生時の初期対応・保守業者への連絡など、専門的な業務を委託できないかなと考えています。今後、委託業者を選定することになりますが、地元のIT企業にも打診しているところです。</p> <p>来年度の新規事業については、以上です。</p>
教育長	<p>これが(子どもたちが使用する)タブレットの現物です。非常に強くて重たいです。カバーとキーボードが付いています。</p>
崎村委員	<p>キーボードが付いていると使いやすいですね。</p>
市長	<p>数年前に、他のスタディアプリとか検討したことがあるんですけど、これにしっかりドリルとか無料動画とかが入っているので、自習時間とかも含め、分からない单元とかを自分でもう一回見直して追い付くこともできるので、柔軟に使用させてほしいと思いました。検索したら、学年ごと单元ごとにドリルや無料動画が入っているので、使い倒したほうが良いですね。塾に行く必要がなくなるくらいにしてほしいですね。せっかくあるので。</p>

崎村委員	予習・復習ができますね。
別府委員	最終的な着地点は、それを使って家で宅習ができるというかたちなんですか。しばらくの間は学校でというかたちなんですか。
指導主事	基本的には、まず学校で使って行って、そこから広がるのは検討の余地があると思います。
市長	例えば、児童クラブとかも、夕方やることがないんですよね。教室の中で走り回ってるだけだから。
崎村委員	部屋の中で「ここに居なさい」ってなったときに、子どもたちは退屈しますよね。授業が終わってからの何時間とかじゃなくて、土曜日1日とか、春休み・夏休み・冬休みの1日とか、退屈して静かにはできないと思うんですよ。
市長	<p>児童クラブは教育委員会じゃないと言うのではなくて、使ってほしいですね。私は毎日迎えに行くから分かるんですけど、最近、コロナのために、じっと座って本を読ませる、でも、読む本も限界が出てきますし、それだったら、児童クラブで残っている間に、授業の復習とか、ドリルをやろうよとかいうことを、児童クラブの指導員さんたちと連携すれば、学力向上になるようなツールにはなりますよね。学校にいる限りは、Wi-Fiは使い倒したほうが良いわけですからね。</p> <p>これだけ良いものを1台ずつ配って、現状として家に持って帰られないのであれば、放課後児童クラブとか子ども教室とかの中で、ぜひ使っても良いのかなど。もしくは最後の1時間とか、残る子は残っても、こういうのを触られると良い気がしますね。塾に行かなくても、公教育で学力のサポートができるよと使ってほしいですね。もったいないですよ、かなりのお金を使っているから。授業時間しか使わせないというようなことではなくて、これを使って、夕方の1時間は「学力アップタイム」とか、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>子どもは最初の登録に手間が掛かるだけで、余裕で触ると思います。</p> <p>他に何か、ご意見等はないでしょうか。</p> <p>(協議事項の)「その他」も含めて終わりました。</p> <p>ということで、事務局に進行をお返ししたいと思います。</p>
総務・危機管理課長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>それでは、会次第をご覧くださいと思います。4番の「確認事項」でございます。今後の開催計画ですが、第3回の会議を、年明け1月26日(火)で予定しておりましたが、ちょっとお休みをいただきたいと思います。次回は、3月または4月に開催したいと思っていますので、その際、またご連絡差し上げますので、よ</p>

ろしくお願ひしたいと思ひます。

その他、皆さんから何かございませんでしようか。(教育委員会の)事務局からもないでしようか。

本日は、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。以上をもちまして、総合教育会議を終了させていただきます。お疲れさまでした。